

シルバーウインチ SX・TX型

取説 SX 05-01

取扱説明書

- ご使用になるお客様に必ずお渡しください。
- お客様はご使用になる前に、必ずお読みください。



このたびはフジ製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
- 保守点検の際には、この取扱説明書が必要になりますので、お読みになった後は大切に保存してください。

お 客 様 メ モ	製品の型式	
後日のためにご記入してください。	定 格 荷 重	
お問い合わせや、部品のご用命の際	製 造 番 号	
お役に立ちます。	ご 購 入 日	年 月 日

安全上のご注意

シルバーウインチの使い方を誤ると、吊った荷物の落下や感電などの危険な状態になります。据え付け・取り付け、運転・操作、保守点検の前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用ください。

機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。

この取扱説明書では、注意事項を『危険』、『注意』の2つに区分しています。



危険

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

絵表示の例



◇・△記号は、危険・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が記載されています。

○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が記載されています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は必ずアースを接続してください）が記載されています。

*お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

1. 取り扱い全般について

 危険	
● 取扱説明書および注意銘板の内容を熟知しない人は運転しないでください。	
● 運転資格のない人は、絶対にウインチ操作、玉掛け業務を行わないでください。 また、行わせないでください。 ※事業者は労働者に電動ウインチの運転を行わせる場合、労働安全衛生法で定める特別教育を行う義務があり、ウインチの運転にあたっては、特別教育を修了したもので、事業者から指名されたものでなければ運転できません。	
● 作業開始前の点検や定期自主検査を必ず実施してください。	

2. 据え付け、取り付けについて

 危険	
● 据え付けは、専門知識のある人以外絶対行わないでください。	
● シルバーウインチを湿気や塵埃の多い場所など、規定以外の環境には据え付けしないでください。	
● 必ずアース工事を行ってください。また、アースのほかに漏電遮断器を電路に取り付けてください。	
● シルバーウインチを据え付ける場合は設置場所に十分な強度があることを確認してください。	

据え付け、取り付けについて (続き)

注 意

- モータブレーカ、ヒューズなどのモータ保護装置を取り付けてください。



3. 運転と操作について

危 険

- 定格を超える荷重は絶対にかけないでください。
※定格荷重は本体銘板に表示してあります。
- 吊った荷に人は乗らないでください。
また、人の乗る用途には絶対使用しないでください。
- 吊り荷の下に入らないでください。
- 吊り荷の動く範囲に人がいるときは、運転しないでください。
- ワイヤロープの内角範囲に人を立ち入らせないでください。
※内角範囲には立ち入り禁止する囲いや標示を設けてください。
- 荷がかかった状態のままで運転位置を離れないでください。
- 運転中は荷から気をそらさないでください。
- 荷を揺らせるような運転はしないでください。
※押ボタン操作でブラッキング（急逆転）やインチング（寸動運転）を多用しますと荷くずれを起こし大変危険です。
- 地球ぶり（建屋構造物に引っ掛ける操作など）をしないでください。
- 使用前に押ボタンの動作を確認し、押ボタンが円滑に動作しないときは運転しないでください。
- 押ボタンスイッチの指示と違う方向に動くときは直ちに運転をやめてください。
- 使用前にブレーキの動作を確認し、ブレーキが確実に作動しないときは運転しないでください。
- 損傷を受けたり異音や異常振動がするシルバーウインチを運転しないでください。
- ワイヤロープのドラム巻き込み作業は単独で絶対に行わないでください。
※事前に合図などを十分に確認しておき、作業指揮者の指揮により、専従の運転者の操作によって行ってください。
- ワイヤロープの長さが作業揚程に対して適当であるかを事前に確認してください。
- ワイヤロープの端末は、ドラムに所定の方法で確実に固定してください。
- 余巻きは3巻以上必ず確保してください。
- ワイヤロープが乱巻きにならないようにしてください。
※基礎となる最初の1段（地巻）を強く張って平均に巻いてください。
- ワイヤロープに次の異常があるときは絶対に運転しないでください。
 - ・ 素線の断線したもの（1ヨリの間には10%以上の断線したもの）
 - ・ 直径の減少（公称径の7%以上減少したもの）
 - ・ キンク状態となったもの
 - ・ 著しい形くずれ（ストランドのへこみ、心綱のはみだし）、又は腐食したもの
 - ・ 鋼索油のなくなったもの
- シルバーウインチ本体や宙吊りした荷などに電気溶接しないでください。



注 意

- 定格電圧以外では使用しないでください。
- 吊り荷をほかの構造物や配線などに引っ掛けないでください。
- 押ボタンコードを強く引っ張らないでください。
- ワイヤロープを直接荷に巻きつけないでください。



運転と操作について（続き）

 注 意	
● シャープエッジ（鋭利な角）にワイヤロープを接触させないでください。 ● 時間定格を超える使用は絶対にしないでください。 ● 本体に取り付けられた、警告および注意表示の銘板やラベルを外したり、不鮮明なまま使用しないでください。 ● 玉掛けは正しく行ってください。 ● 巻上げは、ワイヤロープが張ったところでいったん停止してください。 ● 押ボタンの回りにじんあい、砂などがたい積しないよう常に清掃してください。	

4. 保守点検、改造について

 危 険	
● 製品および付属品の改造は絶対にしないでください。 ● 富士MFG 純正部品以外は絶対に使用しないでください。	
● 保守点検、修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。 ● 保守点検、修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。 ● 保守点検、修理をするときは、必ず無負荷状態で行ってください。 ● 保守点検で異常個所があったときは、そのまま使用せず直ちに補修してください。	

 注 意	
● 保守点検、修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。	

ご注意

- 分解、組み立てを伴う検査項目は必ず指定の修理工場あるいは弊社にご用命ください。

注意喚起シンボルの説明

-  シンボルは「危険」を告げるものです。（危険信号）
-  シンボルは「注意」を告げるものです。（注意信号）
-  シンボルは「感電の恐れあり」を告げるものです。（危険信号）
-  シンボルは禁止の行為であることを告げるものです。（禁止信号）
-  シンボルは行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。（強制信号）
-  シンボルは「必ずアースを接続してください」を告げるものです。（強制信号）

目 次

1. 法的義務について -----	1	9. 正しい運転・操作と注意事項 -----	6
2. 梱包を解いたら -----	1	-1. 玉掛けについて	
3. 仕様表 -----	2	-2. 荷の巻き上げ、巻下げ	
4. 外観および各部名称 -----	2	-3. 操作スイッチについて	
5. 使用環境上のご注意 -----	3	-4. 安全な作業のため	
6. 据え付け -----	3	10. 保管方法について -----	9
-1. 本体の取り付け		11. 配線図 -----	9
-2. 電気配線		12. 故障の原因とその処置一覧 -----	10
7. 試運転 -----	4	13. 分解方法 -----	11
8. ワイヤロープについて -----	5	14. 保守点検 -----	13
-1. ワイヤロープの選定		-1. 日常点検	
-2. ワイヤロープの取り付け		-2. 月例点検	
-3. ワイヤロープの巻取り作業		-3. 年次点検	
		15. 品質保証について -----	15

ご注意 ●この取扱説明書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

1. 法的義務について

シルバーウインチを安全に使用していただくため、事業者は使用する人に労働安全衛生法で定める安全教育を行う義務があります。（法第59条）

⚠ 危険 ● 電動ウインチの運転にあたっては、特別教育を修了したもので、事業者から指名されたものが行わなければなりません。（則第36条）

ご注意 ●シルバーウインチをクレーン、簡易リフトとして使用する場合は、使用形態や吊り上げ荷重によってはクレーン構造規格・簡易リフト構造規格の適用を受け、法的手続きが必要となります。

※ガイドレールに沿って昇降する搬器に載せて、荷のみを運搬する事を目的とする機械装置のうち、搬器の床面積は 1m^2 以下、又は天井の高さが 1.2m 以下のもの（建設用リフトを除く）を簡易リフトという。

又、搬器の床面積が 1m^2 を超え、天井の高さが 1.2m を超えるものは「エレベータ」とみなされます。（労働安全衛生法施行令第1条）

ご注意 ●ウインチ運転に於ける関係法令は以下のものです。必要に応じてご参照ください。

労働安全衛生法（前文中では法と略記）
労働安全衛生規則（前文中では則と略記）
労働安全衛生法施行令

2. 梱包を解いたら

シルバーウインチは一台ごとに十分に調整し、試運転を行った上で出荷しておりますが、輸送中の衝撃等による損傷の可能性も皆無とは言えませんので、梱包を解かれたら念のため次の事項を点検してください。

1. ご注文の仕様のものか。（銘板を確かめてください。）

2. 輸送中の取扱いにより損傷を受けていないか。

3. 付属品の欠品、脱落がないか確認してください。

4. 各部のネジおよびボルトに異常はないか。

※ 本体に同梱されています付属品は取扱説明書、部品表、六角棒レンチ（呼び4又は5）、御使用者カードの4点です。また、S X型は更にアースコードAss'yが付属されています。

3. 仕様表

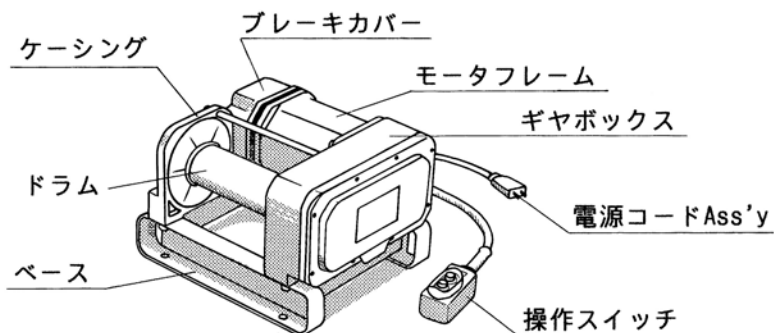
型 式		SX-101	SX-103	SX-201	SX-203	SX-205	SX-210	TX-301	TX-303
定 格 荷 重 (kg)	50Hz	180	300	180	300	600	1000	180	300
	60Hz	150	300	150	300	500	1000	150	300
定格ロープ速度 (m/min)	50Hz	11.0	5.5	19.0	9.0	5.5	2.4	19.0	9.0
	60Hz	13.5	6.5	22.5	11.0	6.5	2.9	22.5	11.0
使用 ロ ー プ 径		φ 6				φ 8	φ 10	φ 6	
ロープ巻取長さ (m)		51.1				89.4	60.0	51.1	
電 動 機	型 式	コンデンサー始動形		コンデンサー始動、コンデンサー運転形				全閉自冷型	
	出 力	0.4 kW		0.75 kW					
	極 数	4 P							
	電圧・電流	単相100V/50Hz 9.2A 100V/60Hz 8.4A		単相100V/50Hz 11.0A 100V/60Hz 10.4A				3相 200V/50Hz 3.7A 200V/60Hz 3.3A 220V/60Hz 3.2A	
	絶 縁	B 種							
負 荷 時 間 率		25% ED							
ブレーキ制動率		150% 以上							
制 御 方 法		2点押釦スイッチによる直接操作							

型 式		TX-305	TX-310	TX-403	TX-405	TX-410	TX-503	TX-505	TX-510
定 格 荷 重 (kg)	50Hz	600	1000	360	600	1000	360	600	1000
	60Hz	500	1000	300	500	1000	300	500	1000
定格ロープ速度 (m/min)	50Hz	5.5	2.4	16.0	10.5	5.7	22.5	14.5	8.0
	60Hz	6.5	2.9	19.0	12.5	6.8	27.0	17.5	9.5
使用ロープ径		φ8	φ10	φ6	φ8	φ10	φ6	φ8	φ10
ロープ巻取長さ (m)		89.4	60.0	160.2	89.4	60.0	160.2	89.4	60.0
電 動 機	型 式	全閉自冷型							
	出 力	0.75 kW		1.5 kW			2.2 kW		
	極 数	4 P							
	電圧・電流	3相200V/50Hz 3.7A 200V/60Hz 3.3A 220V/60Hz 3.2A		3相200V/50Hz 6.9A 200V/60Hz 6.2A 220V/60Hz 6.0A			3相 200V/50Hz 9.5A 200V/60Hz 8.8A 220V/60Hz 8.0A		
	絶 縁	B 種		F 種					
負 荷 時 間 率		25% ED							
ブレーキ制動率		150% 以上							
制 御 方 法		2点押釦スイッチによる直接操作							

※ 定格荷重・速度はドラム3層目の表示です。

4. 外観および各部名称

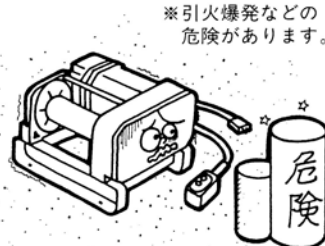
(仕様例：SX-205型)



5. 使用環境上のご注意

⚠ 危険 ⚠ 使用条件を確認して正しくご使用ください。次の条件での設置や、ご使用は大変危険ですのでお避けください。

- ・ -10℃以下の低温、40℃以上の高温、90%以上の高湿の場所。
- ・ 有機溶剤や爆発性粉じん などのある場所。
- ・ 一般粉じんの多い場所。



- 補 足**
- 屋外設置は屋内に比しますと、当然内部の錆や絶縁低下の進度は大きくなってきますので、なるべく直接風雨や雪からお守りいただくようなご配慮をお願いします。
 - 環境が悪い場所でのご使用に際しては、各部の傷みが激しくなりますので、頻繁に点検を行って常に正常な状態でご使用ください。
- ※低温での強度低下、ケーブル劣化、高温でのモータ過熱、絶縁劣化など。

6. 据え付け

⚠ 危険 ⚠ 据え付けは専門知識のある人以外絶対に行わないでください。
※感電やシルバーウインチの基礎からの分離脱落事故などのおそれがあり、大変危険です。

6-1. 本体の据え付け

⚠ 危険 ⚠ シルバーウインチを据え付ける場合は設置場所に十分な強度があることを確認してください。

⚠ 危険 ⚠ 取り付けは各ウインチ容量に対して十分な強度を持った取付ボルトを使用し、基礎に確実に取り付けてください。

型 式	取付ボルト
SX-101,103,201,203 TX-301,303,	M 1 2
SX-205,210 TX-305,310,403,405 TX-410,503,505,510	M 1 6

⚠ 危険 ⚠ 設置場所は作業状態を常に把握できる見通しの良い場所を選んでください。

- 補 足**
- やむ得ず、見通しの悪い場所で運転しなければならない場合は、合図信号の方法や緊急停止の方法などを十分検討し、誤操作のないように注意して運転してください。

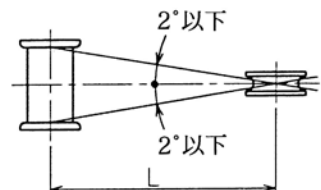
⚠ 注意 ⚠ 標準仕様のウインチは据置タイプでありますので、据置以外の取付方法を採用される場合は仕様変更が必要となりますのでご注意ください。

※屋外にて壁取付および逆さ取付でご使用になられる場合には、防雨対策上、仕様変更が必要となりますので、その際には当社へご相談ください。

- 補 足**
- また、ウインチを壁取付にされる場合、屋内外を問わずモータが縦方向になるような取付は行わないでください。

● 取付方法によりグリースの増量が必要となります。13Pの表を参照ください。

⚠ 注意 ⚠ フリートアングルは2°以下にしてください。
※ウインチへのスラスト荷重を軽減し、故障をなくするため、またワイヤロープの巻取りをスムーズに行い、かつワイヤロープの傷みを少なくするためにもフリートアングルは2°以下にしてください。



滑車はドラム幅内側の中央に設置してください。フリートアングルを 2° 以下にする為のドラムと滑車間の距離を下表に示します。

ウインチ型式	距離L(m)
SX-101, SX-103, SX-201, SX-203, TX-301, TX-303	2.9
SX-205, TX-210, TX-305, TX-310	
TX-403, TX-405, TX-410, TX-503, TX-505, TX-510	4.3

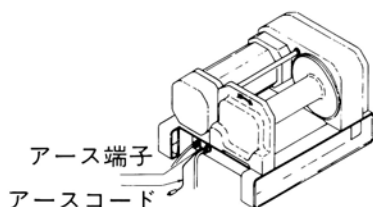
6-2. 電気配線

電気工事は電気設備技術基準、および内線規定に従って行ってください。

⚠ 危険 ⚡ 漏電による感電を防ぐために、必ずアース工事を行ってください。また、アースのほかに漏電遮断器を電路に取り付けてください。

※SXの場合、付属のアース線を用いてベースの下側にあるアース端子からアースを設置してください。

※TXの場合、電源コードの4線の内、緑色の1線を開閉器のアース端子に接続してください。



⚠ 注意 ⚡ 電源は定格電圧以外では使用しないでください。

⚠ 注意 ⚡ 電圧降下に注意してください。

※電源コードや操作コードが長すぎますと電圧降下を起こし、容量不足等の故障の原因となります。下表を参照にして適切な電線を使用してください。

50Hzに於ける電源コードの公称断面積と最大許容長さ

ウインチ型式	公称電線断面積		電源コードの最大許容長さ(m)				
	0.75mm ²	1.25mm ²	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²	
SX-101, 103	—	—	8	15	24	36	
SX-201, 203, 205, 210	—	—	6	11	18	27	
TX-301, 303, 305, 310	18	31	51	89	141	205	
TX-403, 405, 410	—	—	28	49	78	114	
TX-503, 505, 510	—	—	15	27	43	64	

60Hzに於ける電源コードの公称断面積と最大許容長さ

ウインチ型式	公称電線断面積		電源コードの最大許容長さ(m)				
	0.75mm ²	1.25mm ²	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²	
SX-101, 103	—	—	9	17	27	40	
SX-201, 203, 205, 210	—	—	7	12	20	30	
TX-301, 303, 305, 310	22	37	59	104	164	239	
TX-403, 405, 410	—	—	31	55	87	127	
TX-503, 505, 510	—	—	15	31	49	72	

ご注意 本表は標準仕様の操作コード(3m)に於ける数値です。操作コードも変更されますと、これにともなって数値も異なってきます。

⚠ 注意 ⚡ モータブレーカ、ヒューズなどのモータ保護装置を取り付けてください。
各機種ごとのブレーカ容量は右表となります。

適用モータブレーカ一覧

ブレーカ容量	ウインチ型式
10A	SX-101, 103
16A	SX-201, 203, 205, 210
4A	TX-301, 303, 305, 310
7.1A	TX-403, 405, 410
10A	TX-503, 505, 510

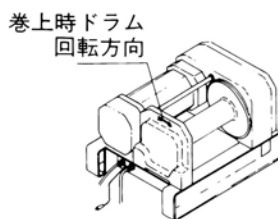
7. 試運転

⚠ 危険 ⚡ 作業開始前の日常点検を必ず実施してください。

※日常点検項目は本取扱説明書13Pを参照ください。

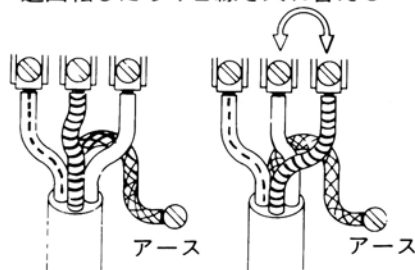
押ボタンスイッチの巻上げ、巻下げを押して次の事項を確認してください。

- ⚠ 危険 ⓧ 押ボタンスイッチの動作を確認し、円滑に動作しないときは運転しないでください。
- ⚠ 危険 ⓧ 押ボタンスイッチの指示と違う方向に動くときは直ちに運転をやめてください。
※ケーシングの矢印が巻上げ時のドラム回転方向を示しています。



※TXの場合は逆方向に回転した時は電源のアース線を除く3線の内、2線を入れ替えてください。

逆回転したら⇒2線を入れ替える



- ⚠ 危険 ⓧ 損傷を受けたり、異音や異常振動がするものは運転しないでください。
- ⚠ 危険 ⓧ ブレーキの動作を確認しブレーキが確実に作動しないときは運転しないでください。
- ⚠ 注意 ⓧ 本体に取り付けられた、警告および注意表示の銘板やラベルを外したり、不鮮明なまま使用しないでください。

8. ワイヤロープについて

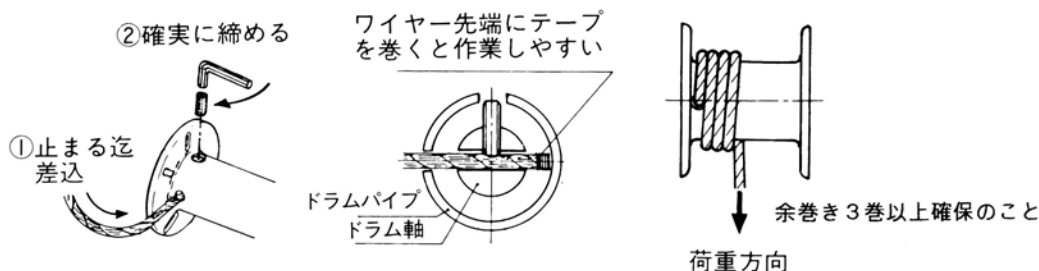
8-1. ワイヤロープの選定

- ⚠ 危険 ❶ 機種の内容量、揚程に合ったワイヤロープを使用してください。
- ⚠ 危険 ❷ ワイヤロープの長さが作業の揚程に対して十分に余裕があるかを確認してください。
※余巻きは3巻以上絶対に必要ですので、余巻き分を考慮してください。
- ⚠ 危険 ❸ 現在使用中のワイヤロープに異常が見つかりましたら、直ちに新品ワイヤロープに交換してください。
※異常項目については、本取扱説明書13Pの日常点検項目を参照ください。

8-2. ワイヤロープの取り付け

ワイヤロープ末端部を下図のようにワイヤロープ取付穴に入れ、反対側に完全に突き当たるまで差し込み、最後に六角穴付止めネジでしっかりと締め付けてください。

- ⚠ 危険 ❶ ワイヤロープ末端の取り付けは上記の方法で確実に行ってください。
- ⚠ 危険 ❷ 余巻きを3巻以上必ず確保してください。
※巻戻し時、ワイヤロープ取付穴に直接荷重が掛かると大変危険です。



8-3. ワイヤロープの巻取り作業

- ⚠ 危険 ⚠ ワイヤロープの巻取り作業は単独で絶対行わないでください。
※事前に合図などを十分に確認しておき、作業指揮者の指揮により、専従の運転者の操作によって行ってください。
- ⚠ 注意 ⚠ 巻取り作業は地巻がしっかりしていないと、ワイヤロープが傷んだり、食い込みの原因になりますので、できるだけワイヤロープを強く引きながら整然と巻き込んでください。
※特に最初の1層目を強く張って平均に巻く事が大切です。

9. 正しい運転・操作と注意事項

- ⚠ 危険 ⚠ 操作に必要な教育を受けていない人には、使用させないでください。

9-1. 玉掛けについて

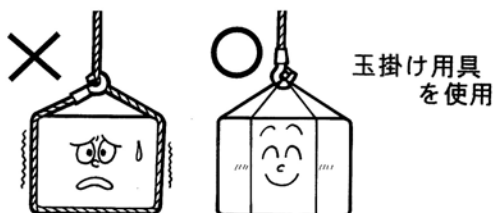
- ⚠ 危険 ⚠ ワイヤロープ端末と吊り荷との取り付けは確実に行ってください。

- ⚠ 危険 ⚠ 荷重、形状に適した最も安全な玉掛け用具（吊り具）を使用してください。
※安全率：玉掛けチェーンは5以上
玉掛けロープは6以上



- ⚠ 注意 ⚠ シャープエッジ（鋭利な角）にワイヤロープを接触させないでください。

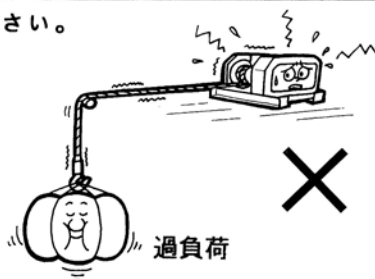
- ⚠ 注意 ⚠ ワイヤロープを直接荷に巻きつけないでください。



9-2. 荷の巻き上げ、巻下げ

- ⚠ 危険 ⚠ 定格を超える荷重は絶対にかけないでください。

※過負荷での作業はモータの焼損が発生したり、他の部品の故障を招き、事故につながり危険です。
必要以上のワイヤロープ長さは巻太りにより過負荷の原因になります。ワイヤロープがドラムに巻取られる層数により、巻き上げ可能な荷重やロープ速度が変化します。
次表をご覧ください。



ロープ巻取層数と定格荷重の関係

周波数	ロープ巻取層数	ウインチ型式と定格荷重				
		SX-101 SX-201 TX-301	SX-103 SX-203 TX-303	TX-403 TX-503	SX-205 TX-305 TX-405 TX-505	SX-210 TX-310 TX-410 TX-510
50Hz	1~3	180kg	300kg	360kg	600kg	1000kg
	5	146kg	293kg	299kg	480kg	931kg
	6			276kg	437kg	
	8			239kg		
60Hz	1~3	150kg	300kg	300kg	500kg	1000kg
	5	122kg	244kg	249kg	400kg	776kg
	6			230kg	364kg	
	8			199kg		

ロープ巻取層数とロープ速度の関係

周波数	ロープ巻取層数	ウインチ型式とロープ速度					
		SX-101	SX-103	SX-201 TX-301	SX-203 TX-303	SX-205 TX-305	SX-210 TX-310
50Hz	1	8.5m/分	4.2m/分	14.7m/分	6.9m/分	4.1m/分	1.7m/分
	3	11.0 "	5.5 "	19.0 "	9.0 "	5.5 "	2.4 "
	5	13.4 "	6.7 "	23.2 "	11.0 "	6.8 "	3.0 "
	6					7.5 "	
60Hz	1	10.4 "	5.0 "	17.4 "	8.5 "	4.8 "	2.0 "
	3	13.5 "	6.5 "	22.5 "	11.0 "	6.5 "	2.9 "
	5	16.5 "	7.9 "	27.5 "	13.4 "	8.1 "	3.7 "
	6					8.9 "	

ロープ巻取層数とロープ速度の関係

周波数	ロープ巻取層数	ウインチ型式とロープ速度					
		TX-403	TX-405	TX-410	TX-503	TX-505	TX-510
50Hz	1	12.7m/分	7.8m/分	4.0m/分	17.9m/分	10.9m/分	5.6m/分
	3	16.0 "	10.5 "	5.7 "	22.5 "	14.5 "	8.0 "
	5	19.2 "	13.1 "	7.3 "	27.0 "	18.0 "	10.3 "
	6	20.8 "	14.4 "		29.3 "	19.8 "	
	8	24.0 "			33.8 "		
60Hz	1	15.1m/分	9.4m/分	4.8m/分	21.5m/分	13.1m/分	6.7m/分
	3	19.0 "	12.5 "	6.8 "	27.0 "	17.5 "	9.5 "
	5	22.8 "	15.5 "	8.7 "	32.4 "	21.8 "	12.2 "
	6	24.7 "	17.1 "		35.1 "	24.0 "	
	8	28.5 "			40.6 "		

⚠ 危険 ⚠ 荷を揺らせるような運転はしないでください。

※押ボタン操作でブラッキング（急逆転）やインチング（寸動運転）を多用しますと荷くずれなどを起こし大変危険です。



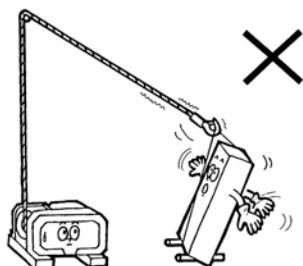
⚠ 危険 ⚠ 地球吊り（建家構造物に引っ掛ける操作など）は絶対しないでください。

※無理な力が加わり本体破損の原因になります。



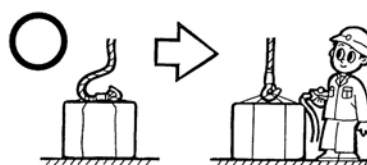
⚠ 危険 ⚠ 吊り荷の反転作業は行わないでください。

※異常に大きな衝撃が発生するおそれがあります。



⚠ 注意 ⚠ 巻き上げはワイヤロープが張ったところでいったん停止してください。

※地離れの衝撃をやわらげることができワイヤロープの傷みも少なくなります。



⚠ 注意 ⚠ 操作コードや電源コードを引っ張ったりしないでください。
※断線のおそれがあります。



9-3. 操作スイッチについて

操作スイッチで『上』を押すと上昇し、離すと停止します。

『下』を押すと下降し、離すと停止します。

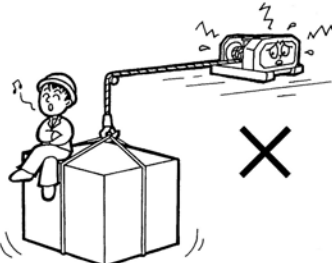
⚠ 注意 ⊕ プラッキング（急逆転）や過度のインチング（寸動運転）をしないでください。
※本体やワイヤロープの寿命を極端に縮めます。又振動による荷崩れの危険もあります。

⚠ 注意 ⊕ 操作スイッチの回りにじんあい、砂などがたまり積まないよう常に清掃してください。

9-4. 安全な作業のため

⚠ 危険 ⊖ 吊った荷に人は乗らないでください。又、人の乗る用途には絶対使用しないでください。

※吊った荷は不安定で、人の転落や荷が落下するおそれがあります。



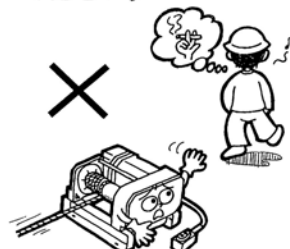
⚠ 危険 ⊖ ワイヤロープの内角など危険な場所に人を立ち入らせないでください。

※立ち入り禁止する囲いや標示を設けてください。

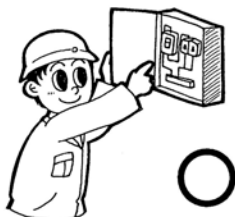


⚠ 危険 ⊖ 荷を吊ったまま運転位置を離れないでください。

⚠ 危険 ⊖ 運転中は荷から気をそらさないでください。



⚠ 危険 ⊕ 作業終了後は、断路器を遮断し、電源電圧を切ってください。



⚠ 危険 ⊖ ウインチ本体や宙吊りした荷などに電気溶接しないでください。

⚠ 注意 ⊖ 時間定格を超える使用は絶対にしないでください。

※ウインチは周囲温度40℃以下で負荷時間率25%ED、最大始動頻度150回/hを超えない範囲でご使用ください。

$$\text{負荷時間率(\%ED)} = \frac{A}{A+B} \times 100(\%)$$

A : 全負荷運転時間
B : 停止時間

最大始動頻度 1時間当たりの押釦を押す回数（インチング回数を含む）

モータの焼損を防ぐ為、負荷時間率、最大始動頻度は絶対にオーバーしないでください。尚、定格範囲内での使用に於けるモータの温度上昇は異常ではありません。モータが許容温度近くになりますとモータフレームは80℃程度となり長く触れていられなくなります。ちなみに、60℃では5秒程度触れていられる状態です。

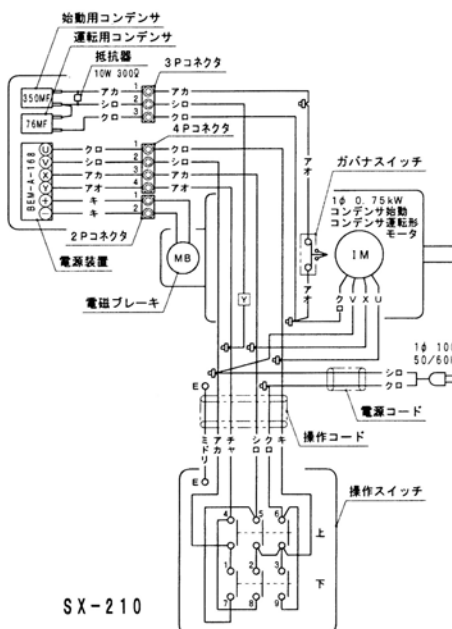
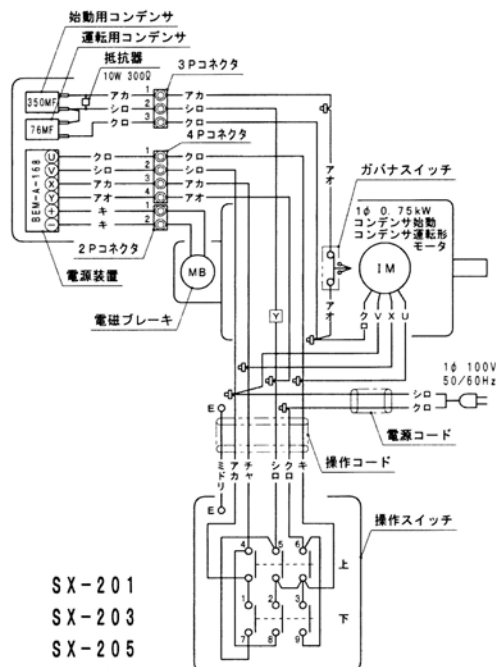
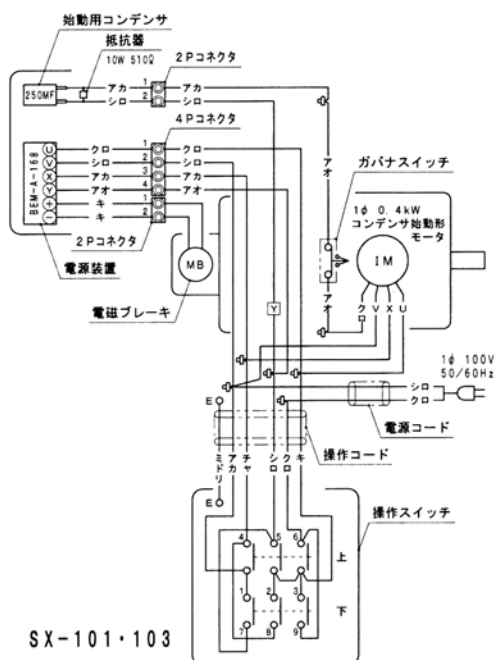
10. 保管方法について

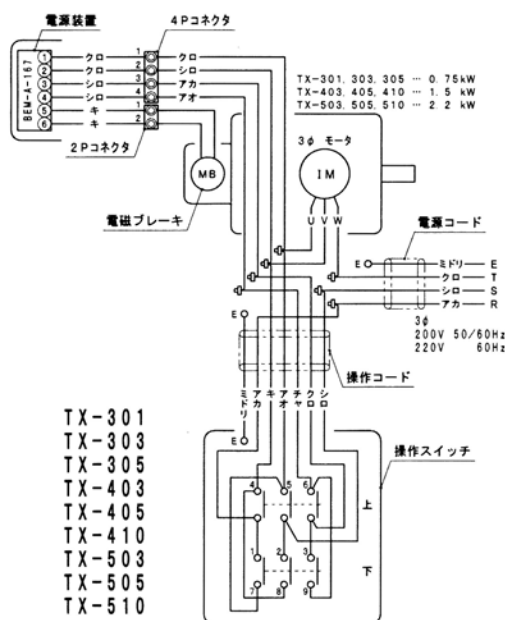
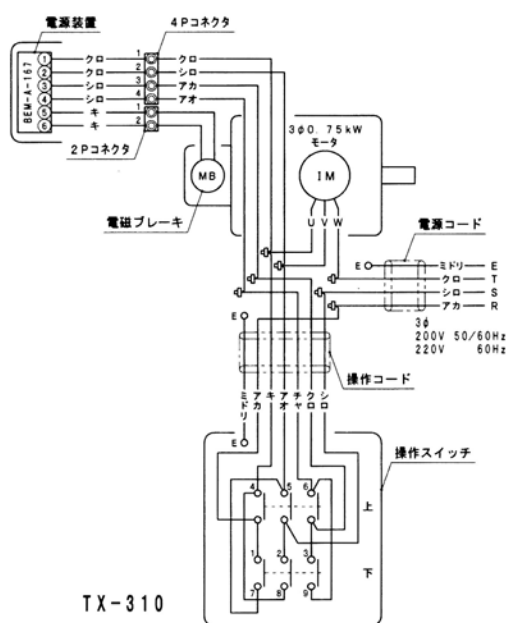
シルバーウインチは屋外で使用できますが、長期間雨ざらしにしますとプレーキカバー内に水が入り、発錆や絶縁不良を招き思わぬトラブルを引き起こすことがあります。屋外設置の場合は防雨カバーを付けるなどして、本体になるべく直接雨水が掛からないようご配慮をお願いします。

⚠ 注意 雨・霧にさらしたり湿気の多い所には、なるべく放置しないでください。

⚠ 注意 長期間保存されたものや、あまり使用されていなかったウインチは、十分な点検の後必ず負荷を掛けた状態で、ドラム1回転程度の長さで数回巻上げ、巻下げのならし運転をして、滑り、その他の故障がない事を確認した上で、ご使用ください。

11. 配線図





12. 故障の原因とその処置一覧

ご注意 ● 本機的主要な故障の原因とその処置について下記に示しますが、実際の修理を行う場合、比較的高度な専門技術を要する箇所もあり、そのため修理ミスにより事故発生も危ぶまれます。弊社としましてはそのような場合事故責任を負いかねますので、修理は必ずお求めの販売代理店、あるいは弊社にご用命ください。

- ⚠ 危険 ☞ 製品および付属品の改造は絶対にしないでください。
- ⚠ 危険 ☞ 富士MFG純正部品以外は絶対に使用しないでください。
- ⚠ 危険 ☞ 修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。
- ⚠ 危険 ☞ 保守点検修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。
- ⚠ 危険 ☞ 修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行ってください。
- ⚠ 注意 ☞ 修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。

故障状況	故障原因	処置	分解方法
モーターが始動しない	電源が入っていない ヒューズ切れ、ブレーカ遮断	配電盤を確認し、通電処置をする	
	電源が欠相している 押ボタンスイッチの接触不良、又は機内配線コードケーブルの断線	電源のR・S・Tを確実に接続する 導通チェック後、断線部を修理 損傷部分を交換	
モーターがうなり動かない	押ボタンスイッチの接触不良	導通チェック後、断線部を修理	
	はなはだしい電圧降下	起因する電線を太く又は短くする	
	過負荷となっている	定格以下の荷にする	
	ブレーキの故障・くいつき	ブレーキ修理	修理店へ
	モータ焼損	新品モータに交換	修理店へ
押ボタンの指示と異なった動作をする	抵抗・コンデンサの損傷(SXのみ)	導通チェック後、分解修理または交換	修理店へ
	モータのガバナスイッチの損傷(SXのみ)	導通チェック後、分解修理または交換	修理店へ
押ボタンの指示と異なった動作をする	電源の接続が逆相になっている(TXのみ)	電源のSとTを入れ替える	
	機内配線の誤り	配線図により正しく接続する	
巻上げできない	はなはだしい電圧降下	起因する電線を太く又は短くする	
	過負荷となっている	定格以下の荷にする	
巻上げできない	押ボタンスイッチの接触不良、又は機内配線の緩み	導通チェック後、損傷部品を交換 接続部を確実にする	
	押ボタンスイッチの接触不良、又は機内配線の緩み	導通チェック後、損傷部品を交換 接続部を確実にする	

故障状況	故障原因	処置	分解方法
ブレーキが動作しない	電源電圧が過度に低下している	所定の電圧を確保する	
	ブレーキ隙間が限界を超えている	ブレーキの隙間調整又は電磁ブレーキ交換	※-①,-③
	電源装置が焼損している	新しい電源装置に交換	※-②
	電磁ブレーキのコイルが焼損している	新しい電磁ブレーキに交換	※-③
	コネクタ部分の接続不良	導通チェック後、接続部を確実にする	
巻上げ・巻下げ停止時、ブレーキが滑る	過負荷となっている	定格以下の荷にする	
	ブレーキ隙間が限界を超えている	ブレーキの隙間調整又は電磁ブレーキ交換	※-①,-③
	進相コンデンサが接続されている	正規の取り付け方法とする	当社へ
速度が遅い	過負荷となっている	定格以下の荷にする	
	電源電圧が低下している	所定の電圧を確保する	
モータが異常に過熱する	過負荷となっている	定格以下の荷にする	
	電源電圧が低下している	所定の電圧を確保する	
	外気温が極端に高い	ふく射熱などを防ぎ、周囲温度を下げる改善を行う	
	ブレーキ隙間が限界を超えている	ブレーキの隙間調整又は電磁ブレーキ交換	※-①,-③
	ベアリングの損傷	点検、交換する	修理店へ
騒音が通常より大きい	ギヤの摩耗・損傷	点検、交換する	修理店へ
	グリス切れ	補充・交換する	※-④
	本体の据え付け不良	増し締め	
	アース不良	アースを完全にする	
本体に触れるとビリビリする	絶縁不良	異常箇所を修理・交換する	
	バックシムの傷み	交換	
グリス漏れ	ギヤカバー取付ボルトの緩み	増し締め	

13. 分解方法

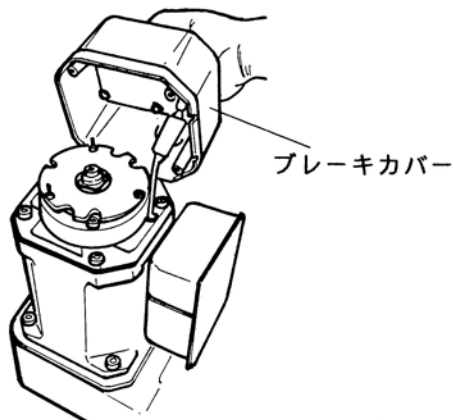
前項の故障の原因とその処置一覧の中から、※印項目について更に具体的に分解の方法と処置を以下に示します。

部品構成については部品図を参照し、実施してください。

※-① 電磁ブレーキ部の隙間調整方法

ブレーキが摩耗しますとブレーキが滑ったり、またブレーキが解放せずウインチが動作しなくなったりします。各機種毎のブレーキ隙間の限界値は右表となっています。調整は一回のみ可能ですので、再度、隙間が限界を超えますと電磁ブレーキの交換が必要です。

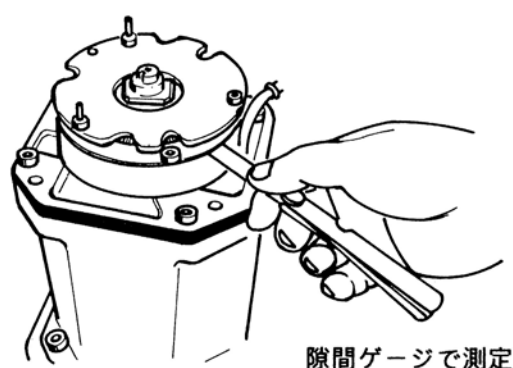
- ①. 先ず電源を切ってください。
- ②. 十字穴付ナベ小ネジを外し、ブレーキカバーを取り外してください。



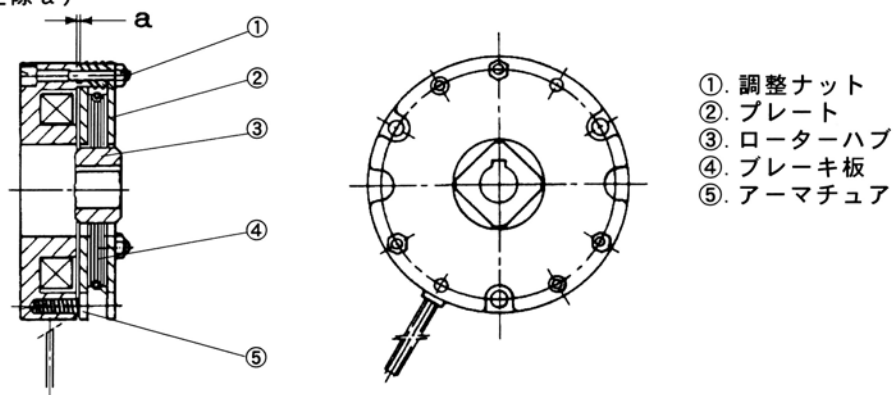
ブレーキ隙間の限界値

ウインチ型式	規定値(mm)	限界値(mm)
SX-101,103	0.15±0.05	0.5
SX-201,203,205,210	0.2 ±0.05	0.55
TX-301,303,305,310	0.2 ±0.05	0.65
TX-403,405,410	0.2 ±0.05	0.6
TX-503,505,510	0.25±0.05	0.6

- ③. 隙間ゲージで現在のブレーキ隙間（構造図の空隙a）を確認してください。



- ④. ブレーキ隙間が上表の限界値に達していたら、構造図の空隙 a に隙間ゲージを差し込み、調整ナット 3 カ所を回し、空隙が平均かつ規定値の範囲におさまるようにして調整してください。
(構造図の空隙 a)



ご注意 ●電磁ブレーキはお客様にて分解や修理を行わないでください。組立ミスから重大事故へとつながる恐れがあります。そのような場合には弊社としましても事故の責任は負いかねますので、修理の際には必ずお買い上げ代理店を通じ、弊社へお申し付けください。

ご注意 ●再組立の際には、差し込みプラグの接続不良、リード線とブレーキ回転部分との接触の有無、ブレーキカバーとリード線の噛み込みによる損傷などが起こらないように配線経路に十分注意し、組立を行ってください。

※-② 電源装置の調査・交換

押釦スイッチを押しても、電磁ブレーキが解放しない場合（『カチカチ』とブレーキの動作音がしない場合）の主な原因としては以下 4 項目が考えられます。

- (1) 電源装置の破損
- (2) 電磁ブレーキの故障
- (3) コネクターの接続不良
- (4) リード線の断線

ところで電源装置はリード線の端子が露出していない為、電源装置単体ではテスターによる導通チェックができません。よって、電磁ブレーキ、リード線及びコネクタ部の接続部に異常が無く電磁ブレーキが動作しなければ、電源装置が破損しているとほぼ判断できます。

- ①. 先ず電源を切ってください。
- ②. ブレーキカバーを取り外してください。電源装置はブレーキカバーに内蔵されています。
- ③. 電磁ブレーキのリード線と電源装置を接続しているコネクタの接続を外し、電磁ブレーキコイルの導通チェックと抵抗値を測定してください。

電磁ブレーキ、リード線、コネクタ部に異常が無ければ電源装置を交換してください。

各機種の電磁ブレーキのコイル抵抗値は右表の通りです。

測定した抵抗値が右表と大きく異なっている場合には、電磁ブレーキを交換してください。

ブレーキの温度が上昇している場合は、温度が周囲温度まで下がってから測定してください。

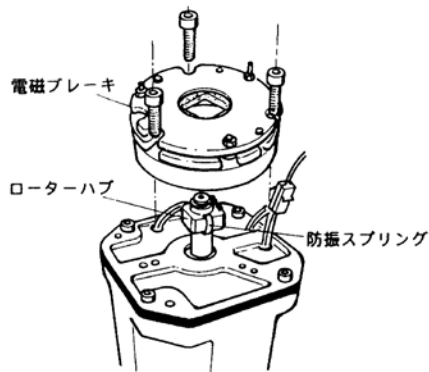
(気温 20℃ に於ける)

ウィンチ型式	ブレーキ型式	コイル抵抗値
SX-101, SX-103	BXL-08-10-A-2G	352Ω ±10%
SX-203, SX-205, SX-210	BXL-10-10-A-2G	324Ω ±10%
TX-301, TX-305, TX-310	BXL-10-10-A-2G	324Ω ±10%
TX-403, TX-405, TX-410	BXL-12-10-A-2G	270Ω ±10%
TX-503, TX-505, TX-510	BXL-16-10-A-2G	230Ω ±10%

※-③ 電磁ブレーキの交換

電磁ブレーキが破損していた場合は接続しているコネクタを外し、3本の六角穴付ボルトを取り外し電磁ブレーキを外してください。

ご注意 ●一部型式によってはローターハブに防振用の小さなスプリングが付いているものがありますので、取り外しの際には十分注意して取り扱ってください。



※-④ グリースの交換

本機の油脂は特殊グリースパイロノックユニバーサル000号（JX日鉱日石）を使用しており点検、交換はほとんど不要です。
しかし、高温域や高頻度で使用される場合には定期的に点検される事をお奨めします。
又、点検等により流失したグリースは補充が必要です。ウインチは取付方向により、グリース量を増量する必要があります。下表を参照してグリースを増量してください。

ウインチ型式	標準取付 (水平)	壁取付(垂直)		天井取付 (逆さ)
		ドラム上	ドラム下	
SX-101, SX-103, SX-201 SX-203, TX-301, TX-303	0.6ℓ	1.0ℓ	1.0ℓ	1.0ℓ
SX-205, SX-210, TX-305 TX-310, TX-403, TX-405 TX-410, TX-503, TX-505 TX-510	1.5ℓ	2.5ℓ	3.5ℓ	2.5ℓ

なお、特殊グリースである為、他社メーカーに同等品はありません。必ず、パイロノックグリース000号をご使用ください。最寄りのガソリンスタンド等で入手できない場合、お買い上げ代理店を通じ、弊社へお申し付けください。

1 4 . 保守点検

故障に対する基本的な対策は、保守点検による予防的措置を行うことです。そのためにも、日常点検、月例点検、年次点検を確実に実施してください。
比較的高度の専門知識を要する月例、年次点検については当社の指定する専門の修理店で行ってください。

- ⚠ 危険① 保守点検、修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行ってください。
- ⚠ 危険④ 保守点検、修理を実施する前に必ず電源を遮断してください。
- ⚠ 危険① 保守点検、修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行ってください。
- ⚠ 危険① 保守点検で異常箇所があったときは、そのまま使用せず直ちに補修してください。
- ⚠ 注意① 保守点検、修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行ってください。

1 4 -1. 日常点検

毎日作業を始める前に空荷のまま運転して、次の事項について確認してください。

点 検 項 目	処置及び対策
1. 取付状態が確実で安全性に問題はないか	目視確認
2. アースが完全であるか	補修
3. ドラムのツバ部の破損、又は凹みがないか	交換
4. 本体に有害な傷、クラックがないか	交換
5. ワイヤロープに異常はないか	目視確認
-1. 1 3刈の間で10%以上素線が断線していないか	交換
-2. 直径の減少が公称径の7%を超えていないか	交換
-3. キンク状態の有無	交換
-4. 著しい形くずれ、又は腐食の有無	交換
-5. ロープエンドの異常の有無	締め付け
-6. 鋼索油塗布の有無	給油
6. ワイヤ止め部は確実に取り付けが行われているか	締め付け
7. 余巻きが3巻以上確保されているか	調整
8. 押釦スイッチを押し、表示通りの回転方向であるか	分解修理
9. 平素と異なる音はしないか	分解修理
10. ブレーキの効き具合はよいか	分解修理
11. 本体各部の取付ネジ・ボルト類に脱落、緩みがないか	締め付け
12. 玉掛用具に異常はないか	目視確認

1 4 -2. 月例点検

シルバーウインチの月例点検は、安全上の重要性、保守上の難易、使用頻度の大小、消耗品か否か等によって、各部品の点検時期を定めるのが望ましいので下表に示すように点検基準を分類します。

分 類	分 類 基 準	運 用
A 級	安全上重要な点検事項	原則として毎月1回点検する。
B 級	機械の保守上重要な点検事項	頻度の高い場合は毎月1回点検する。
C 級	B 級に準ずる点検事項及び消耗部品	3ヶ月に1回は点検した方がよい。
D 級	摩耗破損度合いの少ない部分	3～6ヶ月に1回は点検した方がよい。

点 検 項 目			分類	良否	不良内容及び処置
操 作 関 係	押 釦スイッチ	1 接点の摩耗状態	C		
		2 配線締付ネジの緩み	B		
		3 動作状態	A		
		4 ケースの損傷の有無	B		
		5 絶縁の状態（1 MΩ 以上である事）	B		
	リード線	6 外傷の有無及び緊結状態	C		
	ケーブル	7 外傷の有無及び取付状態	B		
	ブレーキ	8 滑りの有無	A		
ワ イ ヤ ロ ー プ	ワイヤ ロープ	9 素線の断線（1 3リの間で10% 以上）	A		
		10 直径の減少（公称径の7 % 以下）	A		
		11 著しい形くずれ、又はむく、腐食の有無	A		
		12 ロープエンド異常の有無	A		
		13 鋼索油塗布の有無	B		
本 体	フレーム	14 き裂の有無	D		
	ドラム	15 変形、ツバ部の損傷	D		
	ネジ・ボルト	16 脱落、緩みの有無	A		
	油脂	17 漏れの有無	D		
玉 掛 用 具	ロープ	18 断線、キンク、摩耗、傷の有無	A		
	吊チェーン	19 ひっかかりの伸び、線径の減少、き裂の有無	A		
	シャックル	20 変形、摩耗、き裂の有無	A		
	巻上、巻下	21 動作が正しいか、異常音がないか	A		
試 運 転	ブレーキ	22 正常に動作するか	A		

補足・備考

使用頻度は荷重、実動時間、起動停止、インチングの回数を総合して考慮してください。

ブレーキ動作試験は、荷重を吊り、巻下げ中、スイッチを切ってから停止するまでの荷重の移動距離が1 分間の巻上距離の1 . 5 % 以下が正常です。

1 4 -3. 年次点検

点 検 項 目			点 検 基 準	良 否
機 械 部 分	歯 車	1 巻上げ歯車歯厚の摩耗	ひっかかり円上で原寸厚さの10% 以下	
		2 噛み合い歯面の状態	異常摩耗が無い事	
	軸 ベアリング オイルシール	3 軸の状態	有害な傷、割れ、錆が無い事	
		4 ベアリングの損傷	円滑に回転する事	
	表 示 ブレーキ	5 オイルシールの損傷	リップ又は接触面に有害な傷が無い事	
		6 銘板等の表示の状態	銘板等の表示が読み取れる事	
	ブレーキ	7 電磁ブレーキのブレーキ板の損傷	有害な損傷が無い事	
		8 摩耗の有無	ブレーキ隙間が摩耗限界を超えていない事	
	ドラム	9 き裂、変形、摩耗の有無	き裂や有害な変形、摩耗が無い事	
		10 ワイヤ止め部の異常の有無	有害な損傷が無い事	
	油 脂	11 漏れの有無	漏れの無い事	
そ の 他 機 械 部 分		12 損傷の有無	有害な損傷が無い事	

点 検 項 目			点 検 基 準	良 否
ワイヤロープ	ワイヤロープ	12 素線の断線	13mの間で10%以上素線の断線が無い事	
		13 直径の減少	公称径の7%以下である事	
		14 変形、腐食など	著しい形崩れ、キズ、腐食が無い事	
		15 ロープエンドの異常	特に断線、腐食に注意の事	
電気部分	スイッチ	16 鋼索油塗布の有無	油切れが無い事	
		17 接点の損傷	著しい損傷・変色の無い事	
	配線	18 機械部分の損傷	作動上の支障が無い事	
		19 キャブタイヤケーブル	外傷、老化、芯線の切れかかり	
	絶縁	20 リード線	特に端末処理部に異常が無い事	
		21 全回路の絶縁抵抗値	1MΩ以上である事	
組立	全般	22 潤滑油	適油を適量入れる事	
		23 組立塗装	所定の正しい方法で行う事	
動作確認	作動	24 無負荷で作動確認	表示通り動作する事	
		25 ブレーキ滑り	滑りが1分間の巻上げ 停止操作を行った時の滑り 距離の1.5%以下である事	
	巻上げ 巻下げ	26 定格荷重での巻上巻下機能	巻上巻下を全使用揚程で2回以上行い 異常が無い事	

15. 品質保証について

当社では製品の品質を1年間保証いたします。

次の保証期間内の故障または破損した製品については無償にて修理いたします。

- (1) 製品に同封の『御使用者カード』の郵送消印日付けより1年間
 - (2) 前項のカードのご返送なき場合は検査合格証の『検査日』より1年間
- ただし次のような場合は保証いたしかねますのでご注意ください。

- (1) 時間定格を超える高頻度で使用された場合。
- (2) 定格を超える荷重で使用された場合。
- (3) 製品および付属品を勝手に改造された場合。
- (4) 本取扱説明書に記載した注意事項を順守されなかった場合。
- (5) 使用条件を超える過酷環境下で使用された場合。
- (6) その他、当社の責任と認められない事項が原因による場合。

本機の故障による納期遅れなどの2次損害については、保証いたしかねます。

このような事態が予想される場合には、あらかじめ補機などを準備されるか、当社にご相談ください。なお、保証期間内であっても離島または離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

検 査 合 格 証

この製品は弊社の品質規格にもとづき製造され、
検査に合格したことを証明します。

機 械 名	シルバーウインチ
型 式	
製 造 番 号	
検 査 年 月 日	
検 査	

販売元 株式会社 富士製作所
本 社 〒104-0033 東京都中央区新川2-13-11
TEL 03-3555-3031

コールセンター TEL 0761-55-0253 FAX 0761-55-3519
 0120-57-0253

製造元 富士MFG株式会社
〒929-0101 石川県能美市赤井町3-195番地
TEL 0761-58-0383 FAX 0761-58-1881